

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・書道 I	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばす。 ・書の伝統と文化についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・書道 I (東京書籍) ・硬筆副教材「大人のペン字練習帖」 ・実技用具など

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	授業態度・ファイルなど	10%
b. 書表現の構想と工夫	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	作品・ファイルなど	30%
c. 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身につけて表している。	作品など	40%
d. 鑑賞の能力	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている	鑑賞態度など	20%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	2	書道について 用具用材について	<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の違いについて理解する。 ・文房四宝(筆墨紙硯)について学ぶ、用具・用材を丁寧に扱う態度を養う。 	○			
	4~5	6	篆書の基本 隷書の基本 楷書の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書や隷書の基本的な書き方を学び、文字の起源や書体の変遷について理解する。 ・中学校書写で学習した楷書の基本点画を確認する。起筆・送筆・収筆・はね・はらい・転折・点を学ぶ。 	○	○		○
	6~7	14	古典(楷書)の学習 半切1/2作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・六朝時代・唐時代の楷書について古典の特徴や背景を学び、それぞれの表現の違いについて理解する。 ・これまで学習した古典(楷書)の中から一つを選択し、臨書作品(半切1/2)の仕上げ方を学ぶ。 		○		○
	7	8	篆刻の学習	・篆刻の用具・用材や制作手順について理解し、篆刻の仕方について学ぶ。			○	○
	8	4	仮名の学習①	・仮名の書の筆致について学ぶ。平仮名と変体仮名の書き方について理解する。		○	○	
	9	2	行書の基本	・中学校書写で学習した行書の基本点画を確認する。用筆の特徴、字形の変化、線の太細の変化、筆順の変化を学ぶ。	○			○

後期	10	6	古典(行書)の学習 漢字仮名交じり書	・行書の代表的な古典(時代・筆者・背景)を学び、表現力と鑑賞力を養う。 ・漢字古典を基に、漢字と仮名の調和を考えた作品制作を学ぶ。		○		○
	10 ～ 11	6	芳名録の書き方 硬筆の学習 (実用書)①	・書道字典の使い方を理解するとともに、自分の筆書きサインを作る。 ・硬筆における行書の運筆についてを学ぶ。	○			
	11 ～ 12	10	作品制作(創作)	・学んできた表現技法をもとに、創作作品を完成させる。 ・小屏風制作			○	
	1～ 2	8	仮名の学習② 古筆鑑賞 仮名作品の制作	・連綿技法を学ぶ。 ・仮名の古典を鑑賞・臨書することで、日本固有の文化である「仮名」について理解を深める。 ・俳句を題材にして、仮名の表現技法を実践する。	○			○
	2～ 3	4	硬筆の学習 (実用書)② 一字書(大書)	・縦書き横書き文章・はがきの表書き・掲示文など日常生活で必要となる硬筆表現について学ぶ。 ・グループで一文字創作を行い、表現力と鑑賞力を深める。		○	○	
【その他】								